

京大病院 リスクマネージャーのみなさま、こんにちは。5月になりました。
爽やかなよい季節になりました。

医療安全管理室では、そのときの社会のタイムリーな話題を紹介しながら、リスクや安全に関する用語をご紹介します。
今回は、「メディエーション」という言葉をご紹介します。



期待の高さ



技術の進歩



将来の不確実性



倫理的問題

<対話を困難にする要素>

項目：

1. メディエーション
2. 入院時重症患者対応メディエーター

1. メディエーション

メディエーションって何？と思う方は多いと思います。YouTube で、「メディエーション」と日本語で検索すると、「医療メディエーション」の紹介動画が出てきます。再生回数は多くありません。しかし、「mediation」で検索してみると、数十万回の再生回数の動画が多く、欧米では興味関心が高いのだとわかります。

“mediation”は、一般的には、対立する二者間の問題解決方法として紹介されています。裁判では、原告と被告の双方に弁護士がいて、弁護士は、自分の依頼者の利益を目的として、主張を述べ、弁護します。メディエーションでは、メディエーター（弁護士）が第三者として話し合いの整理にあたります。双方と個別に面談したり、三者で面談したりします。二者間での話し合いを促進し、その結果、何らかの解決・決着に至ることを目指す活動です。

医療機関内でのメディエーションは、**患者・家族と医療者**が解決を目指した話し合いをする上で、中立的な立場のメディエーターが入り、**何らかの解決や合意を目指すシステム**です。

英国の動画ですが、わかりやすいのでこれを基に説明します。

<https://www.youtube.com/watch?v=1bQfNrcUQDY>

医療では、患者・家族と医療者の話し合いが難しいことがあります。

- 理由1：医療者が**悪い知らせ**を伝えることが難しい
- 理由2：患者・家族が、医療専門家に意見を伝えるのは難しい
- 理由3：医療者が、医療の概念を非医療者に伝えるのは難しい
- 理由4：医療の**差し控え**の決定が難しい

● メディエーションはどのように役立つか

- ✓ 信頼を再構築する
- ✓ 患者・家族の精神的な打撃を和らげる
- ✓ 説明が受け入れられやすくなり、理解されやすくなる
- ✓ 意思決定に自信を持てるようになる

2. 入院時重症患者対応メディエーター

急に深刻な病態を発症したり、治療しても期待していた方向に進んでいかなかったりする事態に直面した患者さん・ご家族は、そのような事態を受け入れることが難しかったり、納得できなかったりすることがあります。患者さん・ご家族と医療者の間に考えや気持ちの隔たりがあるというときに、両者をつないで、対話を促進したり、理解を深めることを支援する職員がいると、二者が同じ方向に向かって、協力できるようになることがあります。

入院時重症患者対応メディエーターという役割を持つ職員が院内に配置されることが、医療により影響を与え、患者さん・ご家族の心理的ケアにもつながることが分かってきました。

京大病院も2022年4月から、このシステムを開始しました。現在、3名のメディエーターが登録されています。この1か月間で2件の支援依頼を受けて、関わってきました。

京大病院でのメディエーターは、次の役割を持ちます。

- ✓ 患者さん・ご家族、医療者の中立的立場です。
- ✓ 両者の面談の場に同席することもありますし、患者さん側とお話すること、医療者側とお話することもあります。
- ✓ 目的は、二者が**協力して同じ目標**に向かうことができること
メディエーターは、患者さん・ご家族、医療者の双方がこの仕組みを利用することを同意した際に、関係再構築に関わる仕組みです。
今回は、「メディエーター」について、お伝えしました